

お忙しくても、約 2 分間で読めます

# ハートフル・ワード (心からの言葉)

山内公認会計士事務所

TEL 098-868-6895

FAX 098-863-1495

## 経営者への活きた言葉

**高齢化社会モデルを形成し世界をリードする 小宮山 宏 (三菱総合研究所理事長・東京大学前総長)**

1. 高齢化社会に対してポジティブに考えましょう。日本の 80 歳の約 8 割は健常者です。約 2 割の人に対する支援や介護の議論はもちろん重要ですが、8 割の人たちをどうやって社会にインボルブ (巻き込む) させ続けるかが大切です。それが消費を生み、産業を生むからです。
2. 75 歳になったら運転免許を取り上げるのではなく、80 歳になって反射神経が鈍っても安全な車を作ればいい。そうすると新産業になります。高齢者を対象にした視力の補強とか健康のモニターとか、最先端技術を統合し、なおかつ製品として間違いないものが作れるのは、日本だけです。そこに日本のモノ作り力を生かし、世界に通用する高齢化社会モデルを作っていけば、世界をリードできるのです。
3. 本当の先進国というのは、勇気を持って先頭に立ち、自分たちが世界の未来を決めるといふもの。先頭に立った国しか、経済的な利益は上がってきません。先頭に立つ勇気というのは、まず日本の大人が勇気を持つことです。今は、大人が勇気を持てずにビビっているわけです。そんな姿を見ている若い世代が育つはずがありません。教育というのは学校教育で教えることじゃない。見習うべき人を見せることです。大人が前に出ないことには、若い人も前に出てきません。先頭に立つ国になるには、そんな大人がいないとダメなのです。

(参考:「日経ビジネス」2009年7月27日号)

## 経営者のための理念・哲学

**科学技術は人のためにある**

**山海 嘉之 (筑波大学大学院教授)**

1. 科学技術は人のためにある。根本に「誰かの役に立つ」という思いがなければ研究は論文のための研究に終始してしまう。技術は生みっぱなしではいけない。開発を進めた本人が責任を持って最後まで研究する。たった 1 人にでも役立つ結果が生まれたなら、論文では評価されなくとも社会的には意味のある研究だったと胸を張れる。
2. 山海は、「技術研究が学問領域で終わっては意味がない。世の中に役に立って初めて技術と言える。誰かに喜んでもらえる技術なら、いつか社会の中で必要とされる。社会が必要とする技術はビジネスに成長する」と話す。そのために、山海は研究者の枠を超えて企業家とし後進への道筋をつけようとしている。科学技術の開発に最も大切なことは一言で表現するならば、「思いやり」と山海は答える。

(参考:「日経ビジネス」:2009年8月31日号)

## 人事・労務について

**副業している人の割合 (8.1%)**

1. 賃金水準が上がらず、時間外労働の増加も期待しにくい状況下では、仕事を複数持つことも家計の所得を増やす有効な方策の 1 つとなる。18 歳～64 歳の男女を対象に実施したアンケート調査によると、仕事をしている人のうち「仕事は 1 つだけ (本業のみ)」は 91.9%。残る 8.1% が複数の仕事をしており、内訳は、「仕事は 2 つ (本業+副業 1 つ)」が 6.4%。「仕事は 3 つ以上 (本業+副業 2 つ以上)」が 1.7% となっている。
2. 副業の主たる動機としては、「収入を増やしたいから」が最多で、「1 つの仕事だけでは生活自体が営めないから」が続く。本業での月収 (副業 1 つの人) を見ると、副業をしていない人より 7.2 万円少ない 24 万円弱。また副業をしている人の本業を、就業形態別に見ると、正社員が 27.2% にとどまる一方、非正社員は 35.9% に上る。副業を持つ背景には、本来での収入の少なさと雇用の不安定さがある。

(参考:「週刊東洋経済」2009年8月8日号)

## 古典に学ぶ

**真の志とは**

「そもそも真の志とは、自分の心の奥底に潜在しつつ、常にその念頭に現れて、自己を導き、自己を奨励するものでなければならぬのです。書物を読んで感心したり、また人から話を聞いて、その時だけ感激しても、しばらくたつとケロリと忘れ去るようでは未だもって真の志というわけにはいかないのです」

(参考:森信三「修身教授録妙」:致知出版社)